

ふるさと公園あおきみんなの公園プロジェクト

取組に至る背景・事業の目的

防災機能を有した多目的の公園として平成 27 年に開園した「ふるさと公園あおき」は、計画構想の段階から多くの方々にアイデアや植樹等の関わりをいただいて公園整備事業を進めてきた。

公園完成後も、小中学生、団体や企業など幅広い年代に公園づくりに参画していただき、公園に対する親しみをより一層深めていただくとともに、公園の美化に努め、花いっぱい村づくりを進めることで、村全体のおもてなしの心を醸成することとした。

事業内容

① 花壇コンテスト

ふるさと公園あおき内の花壇エリアを区割りして公募にて個人・団体に植花・管理をしていただき、エリアごと花の種類デザインなど自由性を持たせ、花壇の出来栄をコンテスト方式で実施した。

② こども植樹作戦

子どもたちに多年に渡り持続するツツジの苗木を植樹させることで屋外教育を推進するとともに、多年に渡る生育状況を見守らせることで公園に愛着を持ってもらうことを目的に実施した。

③ みんなの公園アワード

村の産業祭において、花壇コンテスト（デザイン・管理の適正・独創性・意欲等から総合的に審査）の表彰を行うイベントとして実施した。審査は5～10月の間に随時行い、通年での評価とした。



【4月29日 集中植花祭】

事業効果

本事業は2年目を迎え、4月29日に実施した集中植花祭は、村内9団体150名の参加者の中、盛大に実施することができた。各団体とも花壇の水やり、草取りに意欲的に取り組んでいただき、5月から10月の間、公園内は様々な花でいっぱいになり、来場される方々の目を楽しませ、花いっぱい村づくりを進める中で大きなきっかけとなった。

工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

- ・コンテスト形式を取り入れたことで、それが各団体の励みとなり、大多数の団体から継続した取り組みを要望されている。
- ・参加団体の構成員のみならず、個人からの協働者を呼びかけ、より地域協働の推進を図るとともに、花苗等の寄附も呼び掛けるなど、より住民が主体となり、親しみやすい公園の管理運営を図りたい。

【選定のポイント】

公園を地域住民の手でつくりあげていくことをコンセプトとして、住民が公園を利用するだけでなく公園づくりに参加することで、みんなに愛される公園になること、また子どもたちの地域への愛着の醸成が期待される。

団体名 青木村	事業タイプ ソフト事業
連絡先 0268-49-0111	事業費 1,435,887円
ホームページ http://www.vill.aoki.nagano.jp/	支援金額 1,076,000円

田辺堰周辺整備事業

取組に至る背景・事業の目的

今回の取り組む田辺堰は、文化3年(1806)高島藩の宮川直線化工事により発生した旧宮川河川敷(幅10m~11m)を利用して整備した用水路です。諏訪大社上社の東約500メートルに位置し、諏訪地域をつかさどった大祝邸が隣接し、上社の参道として多くの方が利用した今橋が事業の起点に位置している歴史ある地域です。

歴史的な価値を再認識し、諏訪市の「上社の社・歴史の散歩道」と一部として、自然に配慮した河川改修及び遊歩道の整備を行うことにより、地元住民及び観光客に親しみのある空間を形成し、この地域を多くの方が訪れてくれる魅力ある空間の形成を目指す。

事業内容

- 田辺堰の周辺整備 延長L=214m(右岸側のみ)
自然石や木杭など自然に配慮した材料を使用し、護岸整備を行うことにより、生き物とのふれあいができる空間を形成する。
 - ・自然石を利用した 護岸工 L=4m
 - ・歴史の散歩道として自然石や植栽を配置した歩道整備 延長L=214m 今橋~大祝屋敷
 - ・ぬくもりのある木製の橋梁設置 1橋
 - ・ホタルが生息する空間の整備 1か所 L=7m
 - ・水くみ場の整備 4か所



【 住民参加の植栽作業 】

事業効果

- ・自然石や間伐材の木杭などを使用した自然に配慮した護岸工事や散策路を整備することにより、ホタルや水鳥など用水に関わる生き物とのふれあいの場が形成できた。
- ・田辺堰は、上流域の上金子区、神宮寺区及び下流域である田辺区の用水や生活用水として、古くから地域住民に親しまれてきたが、今回の事業を通して上流及び下流域の果たす役割など認識が深まった。
- ・田辺堰は、江戸時代に高島藩が行った宮川の直線化工事により廃川敷となった区間を利用したものであるが、そこに散策路を整備することにより、諏訪市の「上社の社・歴史の散歩道」と一部として取り入れて頂き、より多くの方が楽しんで頂けることになった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・これまでは、田辺堰の両側は有効な利用策が無いままに放置されてきたため、廃材の置き場などにされるなど、個人所有地化、荒地化していたが、護岸整備や散策路の整備を進めるにあたり、沿川住民の理解を得るため、地元説明会の実施・境界立ち合いをしたところ、「河川はみんなのもの」という意識が住民に芽生え、自発的に廃材の片づけが始まった。
- ・田辺堰改修委員会が率先して草刈り等の維持管理を行うことにより、住民の意識を啓発し、地域が自発的に管理を行う体制を作りたい。

【選定のポイント】
自然に配慮した護岸整備を行い、住民自らが地域資源である田辺堰を共有財産として維持管理する機運を高めることにより、住民や観光客が親しめる空間の形成が期待される。

団体名 田辺堰(新川)改修委員会(諏訪市)	事業タイプ ハード事業
連絡先 諏訪市湖南639	事業費 2,913,635円
メールアドレス yawatayoshio@yahoo.co.jp	支援金額 2,172,000円

若宮区 区民交流の場再生事業

取組に至る背景・事業の目的

富士見町若宮区は高齢化が進む中、お年寄りのふれあいの場として長い間活用してきた『風月庵』がおおよそ築350年以上の時を経て、茅葺き屋根の老朽化により改修が必要となった。このため数年前の区総会に於いて、改修の方向で決議され新たな委員会を立ち上げて改修をする事となった。

風月庵改修委員会を開催する中で、貴重な茅葺きの建物を後世に残すために、葺き替え作業を専門家に依頼し、それに関わる作業は区民が出来るだけ従事することにより、その技術を継承し、後世に残していきたいとの思いで、茅取り作業等は若者からお年寄りまでの区民総出の一大行事とし3年計画の1年目として茅葺き作業に着手し、茅取り作業と茅刈場の保全に取り組む事とした。

事業内容

- 地域の貴重な財産を後世に残すための環境整備事業
 - ・茅葺き作業に延べ32人の参加（4月～6月）
 - 年齢別 20～30歳代10人 40～50歳代12人
60～70歳代10人
 - ・建物周辺の環境整備に子供育成会20人の参加（10月）
 - 対象 小中学生
- 区民総出、元気が出る思い出作り作業
 - ・茅取り・運搬・保管作業に84人の参加（12月）
 - 年齢別 20～30歳代23人 40～50歳代36人
60～70歳代25人（各年代に女性を含む）



【茅葺き作業の様子】

事業効果

- 各事業に於いて、各年代の区民が集い作業することにより、昼食時には昔話、ふれあいの場所作りの意見交換の場となり、思い出作りの場として有意義な時間となった。
- 子供育成会による周辺整備作業により、子供達が今まで関心がなかった『風月庵』を意識するようになり、周辺が子供達の遊び場となり身近な存在になった。
- 作業を進める中で、区民より『風月庵』の今後の利用方法についても意見・アイデアが出て新たに利用検討が必要となった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今後も、計画通りに改修を進めるが、改修後の『風月庵』利用方法について様々な意見があり、それらを反映させるため新たに利用検討委員会を翌年度に各年代より委員選出し、特に、子供達とお年寄りが気軽に使用できる施設としての利用検討に取り組んでいきたい。

【選定のポイント】

多くの住民が、地域のふれあいの場である『風月庵』を協働で再生することにより、郷土愛の醸成及び地域内の多世代交流の促進が期待される。

団体名	若宮区（富士見町）	事業タイプ	ハード事業
連絡先	事務局 名取 和夫 (090-3092-6279)	事業費	1,052,179円
		支援金額	701,000円

木障をなくして美しい里山をつくる杣人の事業

取組に至る背景・事業の目的

原村は「日本でもっとも美しい村」連合に加入し、美しい村をめざして自立していくことになった。しかし、里山の保全が滞りがちで、木障により田畑の作物に生育障害が出たり、冬季には道路凍結による危険などが発生したりしている。また、住民の高齢化により屋敷林の手入れが進まず、放置され安全な生活環境が阻害されている。

そこで、地域住民と協働し、木障解消のための伐採や間伐を行い、植林活動も行うこととした。伐採木はストーブの薪として製材し、頒布する。本活動の継続的实施のため杣人育成の講座を開催していく。これにより、快適で安全な生活環境と美しい里山景観を創出する活動を進めることを目指す。

事業内容

- 活動拠点「深山フィールド」の整備・拡充
 - ① 薪割機、運搬車、チップパーなどの導入を行い、作業の幅、量ともに飛躍的に向上させることができた。
 - ② 薪づくり講習会、菌打ち体験会等のイベントを通じて、幅広い層に会の活動を知ってもらい、会員の増加につなげることができた。
 - ③ フィールドの一角にどんぐり畑を造成し、播種を行ない、将来の植林に向けての準備とした。
 - ④ HP ページの立ち上げやパンフレット作成により、会の活動紹介を継続的に実施した。
- 伐採活動
 - 個人では手に負えない放置木や台風による倒木処理の依頼にも対応した。



【作業の様子】

事業効果

- 支援金を活用して機材導入ができたことにより、作業の効率化が図られ、伐採作業を大幅に拡大することができた。また、薪割り機の更新により頒布する薪の量が増加し、会の財政基盤の確立、自立化を見通せた。
- パンフレットによる広報活動や新聞取材で活動内容が報道されたことから、14 件の伐採作業を依頼された。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

新会員の増加は歓迎すべきことであるが、杣人の育成という会の趣旨の徹底が必要であり、会則や怪我等に対する検討が急務である。活動依頼が増えたことは、日々の活動の丁寧さが認められたことであり、会の趣旨を理解する機会が増えたことでもある。深山フィールドのハード面の充実にともない、地域の交流拠点として新旧住民との連携・交流をさらに充実させることが課題である。

これまでは伐採等の作業を無償で対応してきたが、今後も継続的に活動するためには最低限の収入を確保しなければならず、いかに対応するかを模索している。

【選定のポイント】

新たな住民の活動参加及び活動の認知度向上を通じて、住民の要望に基づき木障の除去活動等を行うことにより、美しい村づくりの推進が期待される。

団体名	原村杣人の会（原村）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
ホームページ	http://somabito.net/	事業費	3, 409, 480円
メールアドレス	info@somabito.net	支援金額	2, 610, 000円

未来へつなぐ風越山麓わくわくプロジェクト

取組に至る背景・事業の目的

風越山の麓にある飯田市丸山地区では、風越山を中心とした環境整備を行い、既存の地域資源や新たな資源を活用し、取り組んできた。郷土愛の醸成や交流による地域活性化を目標に、次世代を担う若年層にも参加を呼びかけ、風越山の夕源平へのヤマザクラ植樹等の環境整備や、登山ガイド養成に向けた先進地視察、各種イベントを実施する。

事業内容

- ・交流人口増に向けた講演会、先進地視察の実施
講演会：平成29年12月13日 参加者71名
先進地視察：平成29年8月25日 参加者16名
- ・風越山夕源平ヤマザクラの植樹と植樹記念式典
夕源平の山林整備：平成29年9月～11月 参加者延べ40名
記念式典：平成30年3月17日 参加者約70名
- ・次世代を担う若年層（小学生）を対象に風越山麓公園における自然体験（ツリークライミング）・樹木観察会
実施日 平成30年3月25日 参加者31名
- ・各種イベントへの連携
飯田市出身の東京在住者との交流会や、風越登山マラソンでの花プランター展示等、外部のイベントを活用した事業PR



【ツリークライミング体験の様子】

事業効果

- ・事業を通じて環境整備が進み、既存の地域資源や新たな資源を活用した取り組みについて広く住民に認識してもらうことができた。
- ・地域外の一般市民を対象とした様々なイベントや活動を通じ、風越山を観光資源として活用するための丸山地域の様々な取り組みを広報・周知できた。



【プロジェクトメンバー集合写真】

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・引き続き風越山を中心とした環境整備を実施し、地域住民が楽しく活動することを基本に新たな地域資源の発掘を行う。
- ・地域資源を生かして勉強会、登山ガイド養成のための先進地視察、ワークショップ等を実施していくことで、交流人口増加や持続可能な地域活性化に繋げていく。

【選定のポイント】

風越山を地域住民の郷土愛醸成と交流の場として活用するだけでなく、観光交流拡大に向けた魅力ある地域資源づくりのために先進地を視察する等の取組も行っており、今後の更なる活動の発展が期待できる。

団体名	丸山まちづくり委員会（飯田市）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	丸山自治振興センター（事務局）	事業費	770,180円
メールアドレス	ic2148@city.iida.lg.jp	支援金額	562,000円

木祖村景観形成推進事業

取組に至る背景・事業の目的

木祖村は「木曾川源流の里」水の源として、水源地域に相応しい地域でなくてはならない。そのため、山村地域の魅力を損なわない、また多くの観光客の誘致を含め、森林整備等をはじめとした多くの景観形成のための事業を推進しなくてはならない。そこで、村は地域住民や信州大学工学部研究室や建築設計士と連携し、平成25年3月に「源流の里木祖村景観計画」を策定した。

今後、景観形成を計画的に進める上で必要な事業内容や事業手順、優先順位などを明記した実践的な行動計画が必要であり、また御嶽山の噴火に伴い減少傾向にある観光客をとり戻すことやインバウンド効果を高めるためにも観光施設の景観形成が急務である。

事業内容

- 1 観光地等眺望をよくするために支障木等を伐採し、過去の景観を取り戻し観光客の増加を図る。
- 2 景観に配慮したゴミステーションをモデル的に作成し、景観配慮型ゴミステーションの普及を図る。
- 3 景観計画に基づいた景観形成アクションプランを作成し、地域住民の意識高揚を図るとともに景観形成事業の推進を図る。
- 4 景観形成につながる活動を認定する制度を確立し、活動団体・事業所・家族等を村が認定する。



【景観配慮型ゴミステーション】

事業効果

- 1 観光地の眺望を損ねていた箇所の支障木を伐採することにより、かつての風景を取り戻すことができています。
- 2 ゴミステーションを木曾の五木であるヒノキを使用することで、木曾らしさを出し、また安価で作成できることから、今後の普及につながる。
- 3 景観形成に対する本村の取組を、ホームページやスマートフォンで情報発信したことにより、地域住民に周知することでき、意識高揚につながった。
- 4 活動を認定することにより、団体や地域住民の意識向上が図られ、活動を増やすことができた。

【H29年度の認定団体数：2団体】

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 1 観光地等の支障木伐採を継続することで、かつての風景を取り戻し、鳥居峠を中心として更なる誘客を図る。
- 2 本村ならではのゴミステーションを普及させることにより、他町村との差別化を図り、景観に配慮した村づくりを推進する。また、地域資源を活用すると共に、他の取り組みを促進させる。
- 3 アクションプランの内容を更新し、村全体的な景観形成推進と住民意識の高揚を図る。
- 4 景観形成活動を行うことで、地域ごとの住民協定へ結びつける。

【選定のポイント】

支障木伐採や景観に配慮したモデルゴミステーションの設置など積極的に眺望景観整備を進めている点が評価される。今回設置したモデルゴミステーションを、村内だけでなく郡内に拡げていくことが望まれる。

団体名	木祖村	事業タイプ	ソフト事業・ハード事業
連絡先	0264-36-2001	事業費	6,430,741円
ホームページ	http://kisomurakeikan.com/	支援金額	4,762,000円

大音寺山 みんなの山づくり実践事業

取組に至る背景・事業の目的

平成 14 年、約 170 ヘクタールを焼失する大規模な山林火災が発生し、国等による治山事業が実施された。継続的な維持管理を行うため、山林火災から 10 年目の節目に、浅間温泉街づくり協議会の一部門として「浅間温泉遊歩道木の絆会」を発足し、ふる里の山が地域住民に親しまれ、愛される里山になることを目指し活動を行った。平成 28 年度に更なる広域的な事業展開を行うため、組織を NPO 法人化し、名称を「浅間温泉木の絆会」に改め、計画から実行までの活動をすべて地域住民が主体となり自主的に行っている。

事業内容

○遊歩道内の案内板等の整備

前年度に引き続き、遊歩道の案内板、辻々のサイン設置を行った。また、池周辺を散策できるようなり面の補強を行った。

○植樹会の開催

年 2 回、地元住民、留学生を含めた大学生等延べ 150 名が参加した。作業後は豚汁、おにぎり等のふるまいにより、地域住民と参加ボランティアが交流を深めた。

○ウォーキングイベントの開催

街づくり協議会、地元町会の主催により 2 回開催し、延べ 75 名が参加した。



【留学生参加による秋の植樹祭】



【遊歩道整備 擬木の設置】

事業効果

○過去 5 年間の植樹実績

樹種	ツツジ	サルスベリ	モミジ	サクラ	その他	花苗
本数	770 本	283 本	102 本	85 本	260 本	750 本

- ・山火事で荒廃した景観が徐々に整備され、観光スポットになりつつある。
- ・住民の里山に対する関心が高まり、里山を大切に作る気運が芽生えてきた。
- ・留学生の参加も定着し、住民相互の親睦も深まり、毎月の作業に多くの人に参加するようになった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・NPO に法人化した目的は「人はふる里を育て、ふる里は人を育む」ことを多くの人に周知すること。このため、木の絆会の活動をマスコミ等に取上られるよう工夫し、資金集めを容易にした。
- ・年会費 4,000 円納入・作業はボランティア・作業日は原則 15 日 3 時間、個人の予定に配慮した。
- ・会員の高齢化が進む中で、小、中、大学生の参加、諸団体の協力に力を入れている。
- ・今後、浅間温泉の新観光名所に育て上げ、浅間温泉観光協会のホームページ等で紹介、浅間温泉の活性化の一助になれるよう努めていきたい。

【選定のポイント】

焼失した山林の再生に留まらず、地域の里山の価値をさらに高めることにつながった意識の高い事業である。浅間温泉の活性化につながっていくことに期待したい。

団体名	NPO 法人 浅間温泉木の絆会 (松本市)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	会長 久保村 能久	事業費	1,019,576 円
		支援金額	575,000 円

木流笠地蔵コミュニティ広場整備事業

取組に至る背景・事業の目的

J R 白馬駅東側にある線路に隣接する緑地は、観光客や地域住民が多く訪れる場所となっている。そこで、訪れるすべての人に憩いの場所となるようシバザクラやハイビャクシン等の植栽を行い広場の緑化を図るとともに、道路脇への石積みを行い景観形成を行うなど、「木流笠地蔵コミュニティ広場」として整備し白馬駅周辺の魅力を向上させる。

事業内容

白馬駅に隣接する緑地帯（150m）を子どもや大人にも安全なコミュニティ広場として3年計画で整備する。

今年度は工期2期目として次の整備を実施した。

- 自然石土止め石積 石積延長 60m 平均高 80cm
- 黒土（パーク堆肥入）表面にマルチング（雑草除け）ほか
- シバザクラ 200 株 ハイビャクシン 200 株を植栽
- ベンチ 8 組設置



【整備箇所の様子】

事業効果

今年度の整備により落ち着いたコミュニティ広場となってきており、地区内からの評判も良い。

地元住民はもとより外国人や観光客、地元高校生の憩いの場、交流の場として利用が進んでいる。

白馬村の観光客は、スキー客は減少しているが、夏冬を通して外国人観光客は増加してきている。また、白馬駅前観光案内所の利用者数データによると白馬駅前を訪れるお客様は少しずつ増えているとみられ、今後一層の活用が見込まれる。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

長期3年計画で進めている最終年として来年度も引き続き整備に取り組む。

今後、整備したコミュニティ広場の認知度の向上と活用を促すため、白馬駅や白馬駅前観光案内所でのPRが必要と考える。

また、完成後のコミュニティ広場において、地元住民等が参加できるイベントを計画している。

これらを通して木流笠地蔵・木流川全体を盛り上げていきたい。

【選定のポイント】

白馬駅東側のコミュニティ広場を、観光客や地元の人が快適に利用できるよう、地元住民との協働により石積みやシバザクラ・ハイビャクシン等の植栽を行ない、白馬村の玄関口である駅周辺の魅力を向上させる取組が行われた。今後、整備された場所が観光客や地域住民の憩いの場所として広く活用されることが期待される。

団体名	アルプスの会（白馬村）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	会長 新沢 恵 0 2 6 1 - 7 2 - 4 1 3 1	事業費	1, 2 6 1, 3 2 0 円
		支援金額	9 4 5, 0 0 0 円

姨捨の棚田OASISプロジェクト事業

取組に至る背景・事業の目的

国の名勝および重要文化的景観である「姨捨の棚田」は、少子高齢化および人口流出等により名勝地にも関わらず耕作の担い手不足となっていた。この現状を踏まえ、耕作を実施し棚田の景観保全に取り組む活動が始まり、付近の空き屋を改修しての活動拠点を整備することとなった。

事業内容

国の名勝および重要文化的景観である「姨捨の棚田」で少子高齢化、人口流出等で耕作の担い手不足となっている現状を踏まえ、耕作により景観保全に取り組む団体が、付近の空き家を改修し活動拠点を整備した事業。

改修は、構造的部分や設備を建築業者に依頼し、倶楽部会員、長野県短期大学、農作業体験参加者、地域おこし協力隊、一般参加者などと共に屋根塗装や内装（壁塗り、補修等）のワークショップを進めた。事業の進捗状況、現状の課題に対する今後の展望についても、インターネットや各研修会、報道機関等の取材を通して発表し、収穫感謝祭、しめ縄づくり講習会、お披露目会等を開催し、地元耕作者や関係団体とも交流を行った。



【改修作業の様子】

事業効果

改修整備した拠点において、今回初めて関係者が一堂に会し交流し、議論、賛同を得たことは、今後の発展的活動への貴重な足掛かりとなった。

次年度以降においてもより多くのイベントが企画可能となり、様々な交流事業の開催や農作業体験を通して、耕作の担い手確保、移住促進の効果も期待できる。

広報に対する反響も大きく、今後の活性化につながるようなアドバイスや、応援、趣旨賛同のメッセージなどをいただくことができ、事業の成果を感じることができた活動となった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

拠点整備ができたことで、次世代の担い手を中心とした今後の活動がより深く活発することが期待できる。

次年度以降の計画として、引き続き建物補修や庭などの周辺整備をワークショップで進めながら、農作業体験と田舎暮らし体験をセットにしたツアーや、農作業体験型婚活イベント、民泊事業化への検討も進めていく。

【選定のポイント】

農作業体験参加者や学生、一般参加者とともに、ワークショップを進めながら協働で棚田近くの空き家の改修に取り組み、農業体験などで訪れた方々が休憩したり、交流の場を設けることができた。同時に進捗状況や交流内容を情報発信することで、大きな反響を得るなど、交流拠点を中心に、今後の活動の発展への貴重な足掛かりとなり、多くの力を巻き込む形での地域活性化の基礎づくりとなった。

団体名	名勝姨捨棚田倶楽部（千曲市）	事業タイプ	ハード事業
連絡先	千曲市大字桜堂 268 番地 1 千曲市文化財センター内 090-1868-3238	事業費	8,001,160円
		支援金額	5,000,000円